

# 愛隣館研修センターニュース 第59号

〒 612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail :Dayservicecenter.Airin@ma2.seikyou.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

## □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ 支援費制度が始まりましたが… □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

今年の4月より、「障がい者の自己決定を尊重」「利用者本位のサービスの提供」を基本理念に掲げて支援費制度が始まりました。当センターでも、支援費制度に則ってデイサービスやヘルパー派遣事業が行われております。(詳細は2,3面をお読み下さい)

そこで、今号では新たな制度が始まり、

**どないなったんでしょ？  
どないなるんでしょ？  
どないするんでしょ？**

をテーマに向島の重鎮Kさん(四肢体幹機能障がい者)と対談を行いました。こうご期待！

## □□□□□□□□□□□□□□□□□□ 制度導入後の生活は…

H：「Kさん、支援費制度が始まりましたが、生活どない変わりました？」

K：「**ようなったよ！**」

H：「何がどうなりました？」

K：「まずは、家がきれいになったあ！」

H：「へえ～！ヘルパーさんがんばってくれてほんねんなあ！ほんでほかには？」

K：「必要な時に介助者がきてくれるようになったあ！」

H：「へえ～！いいケアプラン作ったんですね！ところで、制度自体についてはどんな風に感じてる？」

K：「そやねえ、当たり前のことなんやけど、障がい者が自分の生活を自分で決められることが理念に掲げられていることは、エエことやね！」

H：「そやねえ、でも選択できるだけのメニューがないってゆう問題もあるんやけどねえ！」

## □□□□□□□□□□□□□□□□□□ ガイドヘルプが!?

K：「あとね、ガイドヘルプあるやん。」

H：「ああ、移動介護ね。」

K：「あれって、前は全身性障がい者か重度知的障がい者しか利用できひんかったやん。それが障がい児も軽度の知的障がい者も利用できるようになったやん。それもエ

エことやねえ！」

H：「そやねえ！どんな障がいをもつていようと本人の社会参加と自己実現のために、移動介護が使えるようになったことは、知的障がい者の生活の幅が広がって、ほんまよかったですたんやけど・・・」

K：「けどって何？」

H：「なんかまた、国ではとんでもないこと考えているっていう噂が流れてるんや！」

K：「そらあアカンがな！」

H：「せっかく高い理念を掲げて制度を発足させても、一年でその理念の根幹を覆すようなことを国は平気でやるんやもんなあ！去年もそうやったやろ？」

K：「ああ、あの障がい者生活支援事業の一般財源化の問題やなあ！」

## □□□□□□□□□□□□□□□□□□

## そして私たちは…

H：「そう！でもねKさん、国の制度がどうあろうとも私たちは自分たちのミッションをしっかりともって歩んでいかなければアカンってゆうことやと思うよ！」

K：「そやね！そのとおり!!!

…ところでミッションってなに？

僕の車椅子はオートマチックやでえ？」

H：「…………(^.^;)」

## Topics

皆さんお久しぶりです。

4月の支援費制度開始に伴い、愛隣館研修センターにも新たな事業が誕生いたしました。(既に開始されてから9ヶ月が過ぎ去ろうとしています)

今回は新たに対象事業所となった愛隣デイサービスセンターと、障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」(身体・知的・児童)の紹介を新スタッフにしていただきましょう!

また、既に古株?となりつつある重症心身障がい者通所事業B型『シサム』、障がい者支援事業「あいりん」の報告もお見逃し無く!!!

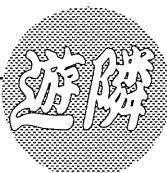
### 愛隣デイサービスセンター

愛隣デイサービスセンターに関わって半年がたちました。最初は不安に思う事がいっぱいありました。が、わからない事はスタッフの方々が親切に教えてくれます。自分の思っている事や疑問も聞いてもらえます。

一人一人の個性を尊重してくれる、すごく自分を出しやすい、いい環境で仕事させてもらっていると思います。

利用者さんとコミュニケーションをとるときも「ありがとう」の一言や、感謝の言葉をもらったときにすごくやりがいを感じます。けれども同時に「本当に一人一人の利用者さんたちに安心してデイサービスを利用してもらっているだろうか?」と考えることがあります。これからも利用者さんの性格や思いをよく理解し、その利用者さんに合わせたサービスを提供していくようにより一層努力していきたいと思います。

「はじめまして榎井一歩です!」



4年前、地域からの様々なニーズを拾い上げるべく、向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』ができ、この4月からは障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」へと一部事業を移行いたしました。

『遊隣』、「ゆうりん」の双方の意味を探りながら、『遊隣』はレスパイト及び緊急一時預かりとして、「ゆうりん」はヘルパー派遣(居宅支援、外出支援)として展開を進めています。

現在94名の方が「ゆうりん」に登録されており、そのニーズの多さが伺えます。私達はただ利用者からのニーズに応えるだけでなく、個々の利用者に必要な支援とは何か、を見据えながら『遊隣』、「ゆうりん」を進めていかなければならぬと考えています。

### ガイドヘルパー…

「ゆうりん」のがトヘルプサービス(外出支援)では、障がい児・者が、あたりまえに、且つ積極的に社会参加できる環境作りを目指し、運動の一貫として取り組んでいきたいと思っております。

どうぞ宜しくお願ひいたします。

(以上 丸山)

### ホームヘルパー(体験談その1)…

知る人ぞ知る愛隣館の重鎮K氏宅に、週2回訪問しています。

多くのボランティアによる見事な連携プレーで、K氏の24時間が織りなされていくのですが、その生活空間にある『物』の多さたるや!キッチャな土産物の数々、いつ誰が使ったのか理解に苦しむ道具(これ以上詳しく書けない)等々が所狭しと鎮座しているのです。

しかしそこはプロたる?私たちヘルパー!人それぞれ価値観が違つて当然、思い出の宝物であるやも知れず、ポイッと簡単には捨てられないで勇気を出してK氏に伺つてみたのでした。答えは一言「ほかして!」。(ええー!!!と言いつつ紙袋に未だ在中…)

かくして『住環境改善計画劇的ビフォーアフター』の始まり始まりー。

快適な空間、あたりまえの心地よさを得るために鍵を握るのは、他でもない今夜の宿泊ボランティアである○○○、あなたなのかも知れませんネ。

(以上 坪内)